大乱闘スマッシュブラザーズカオス　～Acta est Fabula～

ヴァーラガルザ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
大乱闘スマッシュブラザーズカオス　～Ａｃｔａ　ｅｓｔ　Ｆａｂｕｌａ～

【Ｎコード】
Ｎ０７５９Ｘ

【作者名】
ヴァーラガルザ

【あらすじ】
ある日、マリオ達にスマブラ大会の招待状が届いた。だが差し出し人はマスターハンドとクレイジーハンドではなく、Ｍｒ．Ｒと言う男からだった。マリオ達はこの招待状の強制力に違和感を感じながら、スマブラ大会が開かれる奥東京市の特設スタジアムに向かうのであった。それが全ての始まりと知らず・・・。

プロローグ（前書き）

もう一つ小説作ってみました。

これはもの凄いことになりそうだ・・・・。

プロローグ

???1「ククク・・・・、つまり私にこの大会を開けと・・・・?」
???2「そうであります。」

暗く、どこまで続くか分からない空間…。

そこにいるのは赤い服を着た人間とカエル型宇宙人だった。

???1「貴様も面白い事を言うものだ・・・・。」
???2「そうでありますか?我もあの計画のために動いているのでありますから。」

???2は冷静に言う

???2「とりあえず黒円卓や春雨の奴らにも動くようにしてある。問題はない。」
???1「どうりでネスツや遙けし彼の地より出る者とか言う奴らも動き始めているのか。」
???2「君が気にする必要な無いよ、全ては我のコマなのだから。」
???1「私も存分に楽しんでこよう。フハハハハハ!!」
???2「ハハハハハハ!!!」

深き暗闇の中で、その二人は笑っていた。

プロローグ（後書き）

プロローグ、いかがでしたか？

他小説からの参加者募集中！！

次回もお楽しみに！！

第一話：始まりの前の一時（前書き）

真王さんの小説のキャラ参加決定！！

第一話：始まりの前の一時

ここは奥東京市、スタジアム前の繁華街

土産屋店長「さあ～、大乱闘開催記念！大乱闘いきなり団子発売！！」

大乱闘が開かれることになり、盛り上がっている繁華街。その通りを歩いている二人がいた。

マリオ「全く凄い盛り上がりようだな・・・。」

赤い帽子をかぶった男が少し驚きながら言う。
ご存じ、キノコ王国の英雄“マリオ”だ。

マリオ「（今回の大会はマスター達じゃなくよく分からん『R』とか言う奴・・・。気になるが一応参加してみる必要がありそうだ・・・。）てかルイージの奴何処行った！？」
ルイージ「兄ぃぃぃさぁぁぁぁぁぁぁん！！」

マリオがルイージの事を探そうとしたときルイージが向う側からやって来た。

ルイージ「兄さん今まで何処行ってたの！？探しましたよ！！」
マリオ「いや、お前今まで何処行ってたんだよ？」
ルイージ「それより兄さんに届けたいものが。」

そう言うとルイージはマリオに一枚の手紙を渡す

マリオ「？　何コレ？」
ルイージ「読めばわかるよ」
『大会参加者・名簿（一部）』
「ケロロ軍曹」
ギロロ
タママ
ドロロ
日向夏美（パワードスーツＯＮ）
「魔法少女リリカルなのはシリーズ」
高町　なのは
フェイト・Ｔ・ハラオウン
八神　はやて
スバル・ナカジマ
エリオ・モンディアル
シグナム

「ドラゴンボールZ」

孫　悟空

ベジータ

ピッコロ

ブロリー

バラガス

フリーザ

セル

ヤムチャ

「Dies　irae」

藤井　蓮

櫻井　螢

遊佐　司狼

ヴィルヘルム・エーレンブルグ

ルサルカ・シュヴェーゲリン

ウォルフガング・シュライバー
ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン
エレオノーレ・フォン・ヴィッテンブルグ

「KOF」
草薙　京
八神　庵
K’
アッシュ・クリムゾン
ハイデルン
麻宮アテナ
シェン・ウー
ゲーニッツ
クリザリッド
四条雛子

オズワルド
グスタフ・ミュンヒハウゼン
サイキカル
無界
禍忌
紫苑
斎祀
ルガール・バーンシュタイン
アーデルハイド・バーンシュタイン
「ＭＵＧＥＮ」
ドラゴンクロウ
ＳＡＣＨＩＥＬ
右浪清
現実
ミラ・ミシアーノ

ユェン・ソイレン

ヘブンズゲート

カルマさん

『まだいるけどそれは試合が始まってからのお楽しみ。』

リストには、聞いた事も見た事もない名前がたくさん書かれていた。

マリオ「…成る程。つまり、これが他の世界の強者達ってわけか」

ルイージ「うん。でも、凄い人数だよね…」

再びリストを見ながら、マリオブラザーズはゴクリと唾を飲んだ。

マリオ「スマブラメンバーを合わせてもかなりの数…その中で、優勝か……」

ルイージ「む、難しそうだね」

怯えてガタガタと震えるルイージを、マリオは優しく肩に手を置く。

マリオ「落ち着け。やれるだけやればいいんだから」

カービィ「そうだよ〜♪」

ピョンとマリオの頭の上に、星の戦士である“カービィ”が跳び乗る。

マリオ「おわっ！？　カービィ！」

リンク「マリオさんの言う通りですよ」
さらには緑色の服を着たハイラルの勇者“リンク”も頷きながら近づく。
リンク「私達はいつもの通り、全力で戦えばいいんです」
力強い言葉に、ルイージの怯えは吹っ飛んだ。
ルイージ「…そうだね。ありがと」
リンク「いえ」
カービィ「どーいたましてぇ～♪」
マリオ「…さっ、他の連中はどうせスタジアムに移動したんだろ？
行こうぜ」
マリオを先頭に、ゆっくりと彼等は扉へと足を運ぶ。
目指す先は、スタジアムのバトルフィールドであった。
マリオ「（とりあえず『R』の存在も気になるが・・・、マスター達が管理をしているらしいから大丈夫だろ・・・・、だと良いんだがな・・・・・。）」

所変わって・・・・。
???：とある部屋
ネオ「俺を何故呼び出した？」

なぜか『リリカル銀魂　ＳｔｒｉｋｅｒＳ　～銀女神鎮魂歌～』の世界にいるネオがここに呼び出されていた。

???2「面白い計画を考えていてね、君も参加してくれると嬉しいんだけど。」

ネオ「・・・・何だ？」

ネオが訪ねる。そして???2はこう答えた。

???2「世界の再創造。だからいったん君に世界を破壊するよう頼んでいるんだ。どうかな？」

ネオ「・・・まあ、世界を破壊できるなら何でも良い。協力してやろう。」

???2「そうか。交渉成立だ。」

ネオ「では俺はイヴィル達を連れてくる。それまで準備を済ましておけ。」

ネオはそう言うとそのまま去っていった。

???2「・・・・これで第一段階は終わり、だがネオがいた世界の住人が参加している。そいつ等も厄介だが『雷帝』、『ツァラトゥストラ』、『デモンベイン』、これらが一番厄介だ・・・。まあ、ルガールのやつがどう動いてくれるか・・・・。まあ楽しませてもらうとしよう・・・。」

そう言い???2はどっかに行った。

第一話：始まりの前の一時（後書き）

次回、ルール説明＆試合開始！

まだまだ他小説からの参加者募集中だよ！！

第二話：第一試合目開始！！（前書き）

始まりました！！

第二話：第一試合目開始！！

――――特設スタジアム・バトルフィールド

奥東京市に立てられたバトルフィールド。
中央には大会に出る選手一同。

更に主催者ではないがマスターハンドとクレイジーハンドがたたずんでいた。

『それでは！　大乱闘を開催する！』
「「「「「「「「わぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁっ！！！！！」」」」」」」」

客席から発せられる叫びで、観客の興奮具合がよく分かる。
いつもの大乱闘大会の倍はいると思いながら、マスターとクレイジーはマイクを通して説明を開始した。

マスターハンド『それではルール説明をする！　まず勝敗は場外、もしくは気絶で判断する！　因みに棄権も可だ！』

クレイジーハンド『二つ目は、試合には武器は何を使っても構わないぜ！』

クレイジーハンド『三つ目は、対戦する選手はランダムセレクトで決まる！』

マスターハンド『そして最後！　この大会では絶っ対に！　死ぬ事はない！　だから存分にやれ！　以上！』

交互にルール説明を行うと、視線を客席からフィールド上にいる選手達に向ける。

「選手一同には、悔いの残らない戦いを存分にしてほしい！」

マイクを通さないで叫んだ言葉は、いい言葉だった。
しかし声が大きかった為か、耳を塞ぐ者が出たのが残念なところだ。

マスターハンド「それじゃ、第一回戦の第一試合を始める！　ランセレに呼ばれた奴はこのままバトルフィールドに！　それ以外は控え室へ行け！」

第一試合の一言で、選手全員に緊張や興奮が走る。
ランセレが動きだし、そして二人の選手が決まった所で止まった。
そして静かにゆっくりと、マスターは選手の紹介と名前を口にした。

マスターハンド「まず最初は！　赤い帽子にオーバーオールでお馴染みのスマブラリーダー！　マリオ！」
マリオ「僕からか…」
ピーチ「マリオ！　頑張ってね！」
ルイージ「兄さんファイトォ！」
ヨッシー「頑張ってくださ～い！　ヨッシ～！」

周りにいるスマブラメンバーの声援を受け、気を引き締める。

マスターハンド「続いては・・・・・・・・・・・・・・・・・・・、へ！？」

突如マスターが喋るのを止める。

クレイジーハンド「どうした？」
マスターハンド「・・・・・・続いては、スペランガー先生。」
観客全員「えええ！！！！！！！！！」

まさかのスペランガーが選ばれたことに観客全員が騒然とする。

マスターハンド「と…とりあえず……、では両者！　見合って！」

何か色々と開幕から大波乱があったが、両者とも構える。

マスターハンド「では…。始め！」

マスターの言葉と同時に、ゴングの音が鳴り響く！　しかし・・・

テレテレテレテレテッレッレ～♪

勝手にスペランガーが自爆した。

観客、マスター、クレイジー、マリオ「ええ！！！

！！！！！！！！！！！！！！！！！」

全員がマジで驚く。そりゃそうだろう・・・・。

マスター「・・・・・勝者、マリオ。」

マリオ「んなアホな・・・・。」

あきれた顔をしながらマリオは控え室に戻っていった。

第二話：第一試合目開始！！（後書き）

第二話、いかがでしたでしょうか？
今回はルール説明と一試合のみの為に、かなり短めですいません…。
しかし、次回は試合を多くする予定ですのでお楽しみに！

募集中はまだ終わってないので！！

第三話：ランセレ「最初っからクライマックスだぜ！！」（前書き）

前回、遂に始まった大会。
て言うか完全に嫌な気しかしないんだけど大丈夫か？

ルシフェル「大丈夫だ、問題ない。」

第三話：ランセレ「最初っからクライマックスだぜ！！」

マスター「では、第二試合を始める！」

観客の歓喜の声が響く中、マスターはランセレで選ばれた選手を呼んだ。

マスター「サイヤ人の王子、ベジータ！」

ベジータ「俺か・・・・。」

マスター「伝説のスーパーサイヤ人、ブロリー！」

ベジータ「ダニィ！！」

ブロリー「またクズかぁ・・・・。」

ベジータ「もうダメ・・・、おしまいだぁ・・・。」

完全に相手がブロリーだ分かりびびるベジータ。

マスター「始め！」

カァン！

ベジータ「俺は・・・・サイヤ人の王子ベジータだぁぁぁぁぁぁ！！！」

もうしょうがないのでブロリーに突っ込むベジータ。だが・・・

ブロリー「死に損ないがぁ！！」

ベジータ「ハワァ！！」
案の定ベジータはブロリーによって壁に叩き込まれた。
そしてベジータはそのまま下に落ちていった。
マスター「…えぇ～っとぉ……勝者、ブロリー。」
ブロリー「所詮、クズはクズなのだ・・・・。」
クレイジー「…どしたの兄貴？」
マスター「いや、あっさりと終わっちゃったからさ…」
ガッカリしたと言わんばかりにタメ息をついた。
開場もつられてタメ息をしたのだった…。

クレイジー「気を取り直して、第三試合だぜ！　兄貴！」
必死の元気づけに、マスターのテンションはすっかり上がっていた。
マスター「さ～て、次は・・・、えええええええええええええ！！！　なんだこの組み合わせはぁぁぁぁぁ！！！！」
とんでもない組み合わせになった事に驚くマスター
マスター「・・・まあいいや・・・。呼ぶぞ～！　夢の中とはいえ幼女に手を出した魔眼使いの少年、遠野志貴！」

志貴「何でそれ・・・・？　て言うかそれ何処で聞いたの？」

マスター「退魔の一族だが中二病発言連発！　七夜志貴！」

七夜「・・・・どういうことだそれ？」

控え室から出てきた二人は、不満そうな表情で指定の場所に立つ。

マスター「構え！」

志貴「何故お前がここに！？」

七夜「・・・さぁな・・・。」

マスター「始め！」

始まりのゴングが鳴った瞬間、先に動いたのは志貴の方だった。

志貴「くらえ！」

志貴は手に持ったナイフで七夜を斬りつけようとする。

七夜「よっと」

七夜はそれを逆方向に宙返りで軽く避ける。

七夜「次はこっちからだ」

そう言うと七夜は志貴の背後に一瞬で回り込む。

志貴「しまっ・・・！」

七夜「逃げるなら……いや、もう遅いか・・・。」
七夜は志貴に十七分割をくらわす。
志貴「うわあああ！！」
そのまま志貴は切り刻まれぶっ飛ばされる。
七夜「どうした・・・、もう終わりか？」
志貴「まだだぁ！」
志貴は立ち上がる。
七夜「じゃあそろそろ時間も無くなってきたから・・・、決着を付けるか・・・。」
志貴「時間がない！？　どういう事だ！？」
七夜の謎の発言に動揺する志貴
七夜「奴らが動き出しているからな・・・。」
志貴「奴ら！？」
七夜「俺にもよく分からんが、一つだけ言える事は、この大会にはとんでもない裏があるって事だ。その証拠に大会開始の先日、この大会の裏を探ろうとした奴が何者かに殺された。」
志貴「！？」
七夜「俺はこういう事には興味はないが、その主催者たちの目論みが達成されると俺も満足に殺しが出来なくなってしまうからな・・・。」
志貴「・・・お前が何を企んでるのか知らないが、そんなことはさせない。主催者側の企みを止めてみせる！！」

七夜「そうか・・・。じゃあ、決着を付けるとしよう。」
志貴「望むところだ！」

そう言い両者ともナイフを持ち構える。
ちなみに志貴あ眼鏡を外していた。

七夜「行くぞ・・・。」
志貴「こっちもだ！」

両者とも前に飛び上がり・・・・

七夜「弔毘八仙、無情に服す……！」
志貴「見えた！」

志貴は十八分割、七夜は閃鞘・迷獄沙門を繰り出す。

ガキィン！！

両者の技はそのままはじきあった。

志貴「・・・・引き分けか・・・・。」
七夜「それはどうかな？」
志貴「何！？」

志貴が気づいた時にはもう遅く・・・
七夜は志貴の後ろに回り込んでいた。

七夜「極死・七夜！！」

七夜はナイフを志貴に投げ込み、当たる瞬間にナイフの所まで一瞬

で近づき、そのまま志貴を切り裂いた！　筈だった・・・・。

志貴「・・・そこまでだ・・・・。」
七夜「なっ・・・・！」

志貴は七夜を腕ごと掴んでいた。

志貴「これで終わりだ！」
七夜「しまっ・・・・！」

志貴は七夜を前に投げ、再びナイフを構えて・・・

志貴「これが・・・・、モノを殺すっていうことだ。」

ぶっ飛んでいる七夜めがけて飛び、そして七夜をぶった切った。
そのまま七夜は場外にぶっ飛んだ。

マスター「勝者、遠野志貴！」
志貴「ふう、何とかなった・・・・。」

疲れた顔をして志貴は控え室に戻っていた。

マスター「第四試合！　変態なのか英雄なのかどっちだ、ランス！」
ランス「変態とはどういう事だ！！」

苛立ちながらも、ランスは降り立つ。

マスター「続いては…上弦衆のエリート忍者だがあっちのほうは微妙？　鷹守ハルカ！」

ハルカ「は……恥ずかしいです・・・。」

ハルカは恥ずかしくなりながらもフィールドにでる。

戦部タカマル「頑張れー！　ハルカー！」

四方堂ナリカ「負けたら承知しないわよー！」

スバル（あっちのスバルではありません）「頑張るのだぞ、ハルカ。」

仲間達の声援を受け、元気が出るハルカ

マスター「両者、構え！」

ランス「ウッヒョー！　まさか初戦でこんな美女と出会うなんて！！」

ハルカ「（何か嫌な気が・・・・、でも、負けない！）」

マスター「始めぇ！」

ハルカ「私から行きます、雷針撃！」

手始めにハルカが短刀を取りだしランスに斬りかかる。しかし・・・

ガシッ！

ハルカ「え・・・・！？」
ランス「ハルカちゃんだっけ？　なかなかやるじゃないか。だがそれではさっきパワーアップしてきた俺様にはまだまだ遠く及ばんな。」

ハルカの短刀を素手で受け止めているランス、そして・・・

ランス「しかも自分から俺様の近くにやって来てくれるもんだからこちらから来るのが省けた。」
ハルカ「・・・しまっ・・・！！」

ランスはいつの間にかハルカの腕を掴んでいた。
さらにランスは自分の武器、魔剣カオスを取り出していた。

ハルカ「避けられない・・・やられる！」
ランス「くらいな！！　必殺、真・ランスアタッァァァク！！」

ランスはカオスにため込んでいた魔力をハルカめがけてぶっ放した。

ハルカ「キャアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！」

膨大な魔力をくらったハルカはそのまま地面に倒れた。

マスター「勝者、ランス！」
ランス「おい軍手！」
マスター「何だ？」
ランス「このハルカって子連れていってもいい？」
マスター「別に構わんが。」

そしてランスは気絶しているハルカを持って自分の部屋に戻ってしまった。

そのころ・・・。

志貴「いや～、きつかった～。」
琥珀「大丈夫ですか？」
志貴「いや、大丈夫です琥珀さん。」
琥珀「それより遠野君、幼女に手を出したって本当ですか？」
志貴「え！　いや、あれは夢の中の話で・・・。」
琥珀「問答無用！　たっぷり事情を聞かせてもらいますね～。」
志貴「うわあああああああああああああああ！！！！！」

さらに・・・

ハルカ「ん・・・ここは・・・？」

突如何もない部屋で目覚めたハルカ。そこに・・・

ランス「こんにちわ～。」
ハルカ「！？」

突如パンツ一丁のランスが現れた。
ハルカは身の危険を感じ、ここから出ようとするが、手足が縛られていた。そして・・・

ランス「ハイパー兵器始動！　今からパーティの始まりだぁぁぁ！！」

ハルカ「イヤアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！」

その後ハルカはランスさんがおいしく頂きました。

第三話：ランセレ「最初っからクライマックスだぜ！！」（後書き）

マリオ「なんじゃこりゃあああああああああああああああ！！！！！！」

自分「自重しなかったらこうなった。」

第四話：スマブラ秋の一撃祭り！！（前書き）

一撃祭りが始まるよ！！

何かもの凄い早いよ！！

第四話：スマブラ秋の一撃祭り！！

マスター「続いて第五試合！！」

マスター「今回のランセレは・・・・、これか・・・・。」

ランセレの結果を見て嫌な気がしたマスターハンドとりあえず選手を呼ぶ。

マスター「漢を目指す男、陣内兵太！」

兵太「委員長、俺はやるぜ！！」

マスター「続いての選手紹介の前に皆様にお伝えしたいことがあります。」

選手全員「？？？」

マスター「ランセレにはお邪魔キャラがいるので要注意！！」

銀魂メンバー「それ早く言えよ！！」

マスター「と言う訳で・・・、続いては、お邪魔キャラの一人、真王！！」

真王「どうも。」

『リリカル銀魂　ＳｔｒｉｋｅｒＳ　～銀女神鎮魂歌～』の登場人物全員「えええ

えええええええええええええええええええええええええええええ！！！！！！！！！！！！！！！！！」

マスター「そりゃ驚くのも無理もないでしょう。ちなみにお邪魔キャラに負けても一時ランセレから外されるだけ脱落することはありません。あしからず。」

選手全員はほっとする。だがほっと出来ないのが約一名

兵太「マジで・・・・。」
真王「さあ、お仕置きの時間だ」

マスター「試合開始！！」

※ここからは色々とおぞましい事になっていますのでお見せできません

数十秒後・・・・

マスター「勝者、真王！」
真王「こんなものか・・・。」

そしてなんだか分からない何かになっていた兵太であった。

クレイジー「と・・・とりあえず第六試合を始めるぞ・・・。」

マスター「・・・ああ。」

あり得ない状態に唖然とするがすぐに立て直した。
そして選手紹介をする。

マスター「カウントダウンボイスが何故こうなった、ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン！」
ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン「・・・・・・。」

マスター「結構地味だが幽霊退治はした、ルイージ！」
ルイージ「なんかその紹介苛つくんだけど！」

マスター「構え！」
ルイージ「やるぞ～！！」
ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン「俺に唯一無二の終焉をくれ！」

マスター「始め！」

ルイージ「（なんだか強そうな人だ・・・、ここは様子を見て・・・・）」

ルイージはパワーをチャージし始めた。

一方ベルリッヒンゲンの方は・・・・

ベルリッヒンゲン「Ｔｏｄ！　Ｓｔｅｒｂｅｎ　Ｅｉｎｚ'　ｇｅ　Ｇｎａｄｅ！」

何かの呪文を詠唱し始めた。

ルイージ「（アイツが詠唱し終わったときがチャンスだ！）」

そう思いルイージは待つ。

その間にもベルリッヒンゲンは詠唱している。

ベルリッヒンゲン「Die schrecklichen Wunde, das Gift, erstarbe, das es zernagt, erstarre das Herz! Hier bin ich, die off' ne Wunde hier! Das mich vergiftet, hier fliesst mein Blut: Heraus die Waffe! Tauch eure Schwerte. tief, tief bis ans Heft! Auf! ihr Helden: Tot den Sunder mit seiner Qual, von selbst dann leuchtet euch wohl der Gral! —Brieah（創造）—」

ルイージ「今だ！ ルイージロケット！！」

今がチャンスだと思いベルリッヒンゲンにミサイルのように突っ込むルイージ。だが・・・

ベルリッヒンゲンは腕を構え・・・

ベルリッヒンゲン「人世界・終焉変生—（Mi?gar?r V?lsunga Saga）！！」

そう叫ぶとルイージめがけてパンチをぶち込んだ。

ルイージ「うわあああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああ！！！！！」

彼の攻撃をくらったルイージは・・・、身体がはじけ飛んだ。

マスター「・・・勝者、ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン・・・。
」
ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン「信念が足りん・・・。」

マスター「オイどうなってんだコレ！！　ルイージの身体がはじけ
飛んだぞ！！」
クレイジー「どうするも何も・・・、早く医務室に運び込むぞ！！」
試合後、はじけ飛んだルイージの死骸はマスターとクレイジーによ
って急いで医務室に運び込まれた。

マスター「ととと・・・とりあえず第七試合始めるぞ！」

先ほどのとんでもないことに動揺しながら選手を呼ぶ。
マスター「コスプレ好きで新八くんの恋人、ジャンヌ・デビリアス
！」
ジャンヌ「頑張るわ！！」

銀時「新八、誰だアイツ？　お前の恋人とか軍手の奴言ってたけど。」
新八「知りません。あったこともありませんし。」
原作のほうの新八だから仕方がない。
マスター「続いては、史上最弱の男、斬真豪！」
斬真豪「はっはっはっ。」
マスター「始め！」
豪「あっ・・・」
開幕から豪がずっこけた。そして気絶した。
マスター「勝者・・・、ジャンヌ・デビリアス！」
ジャンヌ「何か嬉しくない・・・・。」
不満そうな顔で控え室に戻ったジャンヌであった。

第四話：スマブラ秋の一撃祭り！！（後書き）

・・・・・やっちまったぜ！

マリオ「ルイィィィィィィジイイイイイイイイイイイイ！！！！！！」

第五話：カオス夫婦と『最悪』の降臨（前書き）

謎の男出現！！

正体は自分で考えてね！！（まあ終盤で明かされるけど）

第五話：カオス夫婦と『最悪』の降臨

マスター「第八試合！　カオスなおっさん、ＨＩＧＥ！」
ＨＩＧＥ「ふっふっふっ・・・。」
マスター「続いて、時止めを使うカリスマ吸血鬼、ＤＩＯ！」
ＤＩＯ「ククク・・・。」
マスター「両者、構え！」
ＨＩＧＥ「こういう時間は楽しい物だ・・・。」
ＤＩＯ「フン、このＤＩＯに挑もうというのか、愚かな・・・。」

マスター「始め！」

ＤＩＯ「ＷＲＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹＹ！！！」

ＤＩＯが先手を取って攻撃してきたが・・・

ＨＩＧＥ「フンッ」
イグニス？「ムオォォ！！」
ＤＩＯ「ボゴッ！！」
ＨＩＧＥが投げてきたイグニス？　みたいなものにぶつかり吹っ飛ばされる。

ＤＩＯ「なかなかやるようだな・・・。だがっ！！」
ＤＩＯは自身のスタンド、『ザ・ワールド』を作動させようとする

が・・・。

ＨＩＧＥ「・・・フンッ！！」

ＨＩＧＥが地面を思いっきり叩くと・・・

ドッカァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァン！！！！！！！

ＤＩＯ「こ、このＤＩＯが、貴様なんぞにぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！！！！！！」

ＤＩＯのスタンドが発動する前に、バトルフィールドは地球滅亡シリーズ的な爆発に包まれた。

そして、爆発後にバトルフィールドに立っていたのはＨＩＧＥだった。

マスター「勝者、ＨＩＧＥ・・・。」

ＨＩＧＥ「筋肉モリモリ、マッチョマンの変態だ☆」

マスター「第９試合！　ＨＩＧＥの嫁で同じくカオス、ｐｏｓｓｉｂｉｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｃｈｉｚｕｒｕ！！」

ｐｏｓｓｉｂｉｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｃｈｉｚｕｒｕ「フフフ・・・。」

マスター「戦闘力５３万の存在、フリーザ！！」

フリーザ「くっくっくっ・・・」

マスター「両者、構え！」
ｐｏｓｓｉｂｉｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｃｈｉｚｕｒｕ「・・・・」
フリーザ「地獄以上の恐怖あじあわせてあげよう・・・・。」

マスター「始め！」

フリーザ「ではこちらから行きますよ！！」
フリーザは先に攻撃を仕掛けようとしたとき・・・

突如・・・・

コナァァァァァァァァァァァァユキィィィィィィィィィィィ！！！！！

ドッカァァァァァァァァァァァァァァン！！！！

フリーザ「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！」

フリーザは突如流れた粉雪の曲と共に塵になりました。

マスター「勝者、ｐｏｓｓｉｂｉｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｃｈｉｚｕｒｕ。」
ｐｏｓｓｉｂｉｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｃｈｉｚｕｒｕ「盗んだバイクで走り出す～」

そのままpossibility of Chizuruは歌いながら帰って行った。

マスター「第１０試合！　正体不明の男、ミスターＫ！」
Ｋ「・・・・・・。」

マスター「続いて・・・・（なんて紹介しようかな・・・）、レーティア・デビリアス！」
レーティア「ちょっ、スルー！？」

どうしてこうなったか突っ込むレーティア

マスター「では構え！！」
Ｋ「雑魚が・・・・、すぐに冥界に送ってやろう・・・。」
レーティア「そう簡単にやられる私では無いわよ！！」

ギルシア「頑張れレーティア！！」
リル「ばぶ～。（頑張れママ～！）」
レーティア「ママ頑張っちゃうわ！」

ギルシアとリルの応援を受け、俄然やる気が出るレーティア

マスター「では、始め！・・・・・・・！？」

マスターが始まりの合図を言った瞬間・・・、この世の物とは思え

ない何かが起きた。

ドッカアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアン！！！！！！

マスター「！！！」
クレイジー「何だ！？」

突然起こった爆発に驚くマスターとクレイジー

観客「オイオイ何が起こったんだ！？」

観客達もざわめく。
しばらく経ち煙がはれた後、フィールドいたのは無傷のKと傷だらけのレーティアだった

マスター「あの短い間に何をした！？」
クレイジー「俺に聞くな！！　こっちが聞きたいわ！！」

何が起こったのか分からなくて混乱するマスターとクレイジー
それをよそに・・・

K「この程度か、少しはやると思ったが期待はずれだったようだ。」

呆れた顔でKは言う。

レーティア「まだよ・・・。こっからが本番・・・。」

傷だらけの身体でまだ戦おうとするレーティア

K「まだやる気か・・・、まあ我の先制攻撃を耐えた時点で少しはやると思っていたが。」
レーティア「ならこっちも本気で行かせてもらうわよ!!　」
レーティアはそう言うと懐からタバネに作ってもらったデバイス『ハートローズ』を取り出した。
K「ほう・・・銃型のデバイスか。」
レーティア「感心している場合かな?」
さらに鞭のファスシニムも取り出す
K「・・・・、では気を取り直してバトル開始だ!!」
レーティア「言われなくても!!（でも開幕にくらったダメージが大きすぎる・・・、何処まで持つか・・。）」
開幕でくらったダメージのことを考えて何処まで持つか心の中で少し心配するレーティアであった。
K「一瞬で終わらせてやる!」
まずKは地面から槍を取りだしそれをレーティアめがけて飛ばした。
レーティア「甘いわ!!」
レーティアはそれを全てファスシニムにではたき落とす。
K「ほう、なかなかやるようだ・・・。」
レーティア「よそ見している場合?　乱刃連装舞!!」

レーティアはファスシニムを台風のように振り回しKに当てようとする

K「甘いぞ！！」

Kは周りにバリアを発生させそれを防ぐ。

レーティア「まだ終わってないわよ！！　薔薇の玉砕弾！！」

さらにハートローズから銃弾が撃ち出される。それは簡単に避けられたが避けられた際に地面に着弾した弾はバラの花が咲き散った気がした。

K「ほう、なかなかの腕前だ。フフフ・・・・。」

何故かKは怪しく微笑んでいた。

レーティア「何かってボーっとしてるのか知らないけど、一気に決めさせてもらうわ！！」

そう言うとレーティアは弾を弾奏してKに撃つ。

それもマシンガンの如く。

K「くだらん。」

Kは簡単に避ける。

撃てば弾奏撃って弾奏の繰り返し。

すると一つだけ他のと違う弾がある。

レーティア「これでドドメ！！　」

レーティアはその弾を弾奏し、
レーティア「相愛の十字砲。」
Kに向かってピンク色の閃光がが発射される。だが、
K「それがどうした？　ハッ！！」
だがそれは手の一降りでかき消される。
K「どうした、その程度か？」
レーティア「だと思って？」
K「何・・・！？」
なんといつの間にかさっきの攻撃を避けたKの後ろに
レーティア「さっきまでの攻撃は囮、今から放つのが本命よ！！」
レーティアは鞭を持ち、そして・・・
レーティア「妖魔粉砕・竜王撃！！」
大技を放とうとした、その時
K「タイムアップ。」
レーティア「何・・・！？　ガハッ！！」
突如レーティアから何かに貫通されたような傷口が胸の土手っ腹に開いた。

K「やっぱタイマー制にしといて良かったよ・・・・・自在法『スティグマ』。」
レーティア「スティ・・・グマ・・・？」
K「それは・・・・・、いやいいか。もう時間切れってことなんで、もう死ね。」

そう言うとKは背後から時空の狭間を開いた。そして・・・
K「少しは楽しめさせてくれたお礼だ。王の財宝（ゲート・オブ・バビロン）・改（ネオ）！！」
そう言い放つと背後から大量の武器が出現する。さらに・・・
K「それに君達にいいものを見せてやろう。」
そう言うとKは重傷のレーティアに手をかざし・・・・
レーティア「な…何・・・？　身体が……浮いてる・・・？」
自分の身体が浮いてることに動揺するレーティア
K「さてごらんの皆様、今から、私に挑もうとするとどうなるかこの場で見せてあげましょう。」
ギルシア「ちょっとまて、まさか！！　やめろぉぉぉぉぉぉぉ！！！！」
ジャンヌ「お姉ちゃん！！」
K「ジェノサイド・ソードカーニバル。」

Kがそう言った瞬間、王の財宝・改から大量の武器が放出され、レーティアめがけて飛んでくる。

グサッ！　グサッ！　グサグサグサッ！！

レーティア「キャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！！」

ギルシア「レーティアァァァァァァァァァァァァァァ！！！！！！！！」

ジャンヌ「お姉ちゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁん！！！！！！」

串刺しになっていくレーティアを目の前に悲痛の声を出す二人。だがまだ止まらない。そこに・・・

マスター「もうやめろ！　彼女にはもう戦う力もない！！」

K「文句があるのか？」

マスター「クッ・・・！」

今の惨状を見たマスターは止めようとするが、Kの圧倒的な覇気の圧倒されて動けない。

K「・・・・もう終わりにするか。」

そう言うとKは巨大な剣を背後から取りだした。

K「とどめだ・・・・。散れ！！」

そういいその巨大な剣をレーティアめがけて投げた。だが

カキィン！！

その剣は突如乱入してきた誰かによって止められた

K「・・・・何者だ？」

Kは尋ねる。

銀時「俺は試合に乱入する気はないが・・・・。」
上条「いくらなんでもやり過ぎだろうがてめぇ！！」
銀次「これ以上やるなら俺たちが代わりに相手になってやってもいいぜ！！」

K「白夜叉に幻想殺しに雷帝・・・・、これはちょっと分が悪いですね・・・・・。」

そう言うとKは王の財宝・改を閉じた。そして・・・

K「また会うときは本戦で・・・・、ククク、ハハハハハ！！」

そのまま笑いながら去るKであった。

マスター「勝者、ミスターK・・・・・。」

ギルシア「レーティア！！」
ジャンヌ「お姉ちゃん！！」

攻撃から解放されたレーティアのもとに行くギルシアとジャンヌ。

レーティア「ギ・・・ギルシアに……ジャンヌ・・・？」
ギルシア「大丈夫かレーティア！？」
ジャンヌ「お姉ちゃん！！　しっかりして！！」
マスター「今から治療室に運び込む！！　手伝ってくれ！！」
ギルシア「わ、分かった。すまない！！」
ジャンヌ「お姉ちゃん、もう大丈夫だよ！！」
レーティア「・・・・・・。」

レーティアはもう気を失っていた。
そしてマスターはギルシアとジャンヌと一緒に重傷のレーティアを治療室に運び込んだ。

第五話：カオス夫婦と『最悪』の降臨（後書き）

真王さんいろいろな意味ですみません。

次回は食堂でのお話。（いやな気しかしねぇ・・・・・）

第六話：食堂大騒動！！（前書き）

速報！！

アルティメットカオスパーティ　～混沌上等馬鹿騒ぎ！！～

近日公開！！

参加者募集中！！

第六話：食堂大騒動！！

スタジアム・医療室

ルイージ「・・・ハッ！！」
マリオ「ルイージ！！」
ルイージ「兄さん・・・ここは？」
マリオ「ここは医療室、色々と大変だったんだぞ。」

マリオはルイージの身に起こったことを話す

ルイージ「ひぇぇぇぇ！！！」

それを聞きびびるルイージ

マスター「こっちもビックリしたぞ。再生まで二時間もかかったんだから。」
ルイージ「・・・・・なんか恐ろしい・・・・。」

と言う訳で再生したルイージはスルーするとして、そのころ・・・・

スタジアム内・食堂

ここはスタジアムの中にある食堂。
そこでメロンパンををかけた戦いが始まろうとしていた。

シャナ「・・・・・・。」
神楽「・・・・・・。」

両者睨んだまま動かない

銀時「なんでこうなった？」

悠二「さ・・・さぁ・・・？」

何故こうなったかを説明すると・・・・・、数分前・・・

食堂のおばちゃん「ちょっとアンタ！！　食い過ぎだよ！！」

神楽「いやまだ食い足りないアル！！」

新八「いや、もうこれで３０杯目だよ神楽ちゃん！！」

思いっきり食堂の飯を食いまくっていた神楽

さらに・・・

アラストール「シャナ、さすがに食いすぎでは？」

シャナ「だって、モグモグ、このメロンパン、ガツガツ、おいしいんだもん。」

悠二「喋りながら食ってる・・・・。」

メロンパンを独占していた。悠二とアラストールは呆れていた。

そんな時に・・・・

食堂のおばちゃん「さ～てお待ちかね、プラチナメロンパンのお出ましだよ！！」

キッチンからやって来たのはプラチナ色に光っているメロンパンがやって来た。

神楽「ウオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！！」
新八「ちょっ、神楽ちゃん！？　グボッ！！」
神楽「それ私がもらうアルゥゥゥゥゥゥゥゥゥゥ！！！」
新八をぶっ飛ばし、そのメロンパンの元に向かう神楽。だが・・・

シャナ「待ちなさい！！」

それをシャナに止められる

神楽「何アルか！！？」
シャナ「そのメロンパンは私がもらう！！」
神楽「何ぃ！？　これは私が頂くアル！！」
シャナ「いや、私がもらうわ！！」
神楽「そんなに欲しかったら、力ずくで奪ってみろアル！！」
シャナ「望むところ！！」

新八「・・・止めなくてもいいんですか？　アレ。」
銀時「止めようとしたらこっちが痛い目に合うからやだ。」
悠二「・・・・とりあえずほっといた方がいいな。」

完全に呆れる三人であった。

神楽「行くぞオラァ！！」

カキィン！！

シャナ「チィッ！！」

神楽の放った跳び蹴りを剣で防ぐシャナ

シャナ「ハアッ！！」

剣から火の玉を3つほど飛ばす。
だが神楽は簡単に避ける。

神楽「ホラホラ、どうしたアル？　この程度アルか？」
シャナ「クソッ！」

シャナを挑発する神楽。
そんなことをしている間に・・・・・

シャル「あ、メロンパン発見。」

おやつを食いに来たシャルが・・・・・

シャル「いっただっきま～す！」

そのメロンパンを食ってしまった。

シャル「うま～い！！　帰ろ・・・・・。」

そしてそのまま戻ってしまった。

シャナ「私のメロンパンが・・・・・。」
神楽「私のおやつが・・・・・。」

思いっきりショックする二人であった。

第六話：食堂大騒動！！（後書き）

次回、まさかのタッグ戦！？

第七話：まさかのタッグ戦！？（前書き）

今回はまさかのタッグ戦！！

さらに右手にサイコガンを持つ男も登場！！

第七話：まさかのタッグ戦！？

マスター「第十一試合！　今回はタッグ戦だぜ！！」

そう言うとマスターはランセレを動き出させる。

そしてランセレで決まった組み合わせの通りの選手を呼び出す。

マスター「まずはタッグA、ギロロ伍長&クリザリッド！！」

ギロロ「フンッ！！」

クリザリッド「・・・・・。」

マスター「タッグB、レオン・バステット&ガレーナ・ギラス！！」

レオン「まさかのタッグ戦とは・・・。」

ガレーナ「まさかお前と組むことになるとは・・・・。」

マスター「試合開始！！」

レオン「おりゃあああ！！！」

試合開始の合図と共にレオンがギロロに向かってくる。

ギロロ「んなっ・・！」

レオン「どりゃあああ！！！　ぶっ飛べぇ！！」

不意を突かれたギロロにレオンの剣での一撃が炸裂する！！

ギロロ「ウボァー！！」

そのままギロロは場外へ・・・

クリザリッド「ちょっ・・・おま・・・・・！！」

いきなり相方がぶっ飛ばされたことに呆然とするクリザ。そこへ・・・

・

ガレーナ「後ろががら空きだ！！」

クリザリッド「グボッ！！　ソンナハズハー！！」

後ろに回り込んだガレーナによって場外へ・・・

マスター「レオン＆ガレーナ、本戦進出！！」

レオン「弱すぎる相手だったな。」

ガレーナ「ああ。」

マスター「第十二試合！　タッグA、斬真狼牙＆上杉謙信（戦国ランス）！！」

狼牙「さあ、やってやろうじゃねぇか！！」

謙信「（かっこいい・・・）」

心の中で狼牙のことをかっこよく思う謙信であった。

マスター「タッグB、伊達政宗（戦国BASARA）＆霧雨魔理沙！！」

政宗「Ha！！　楽しいPartyの始まりだ！！」

魔理沙「弾幕はパワーだぜ！！」

マスター「試合開始！！」

政宗「奥州筆頭伊達政宗、押して参る！！　Ｈａ！！」

政宗は鞘から刀を取りだし狼牙と謙信に斬りかかってきた。

謙信「させん！！」

カキィン！！

謙信は帝ソードで受け止める。

魔理沙「隙あり！！」

狼牙「させるか！！」

魔理沙が弾幕を撃とうとするが狼牙に止められる。

狼牙「俺も行くぞ！！　ワイルドシュート！！」

狼牙は飛び上がり魔理沙に跳び蹴りを食らわそうとする。

魔理沙「そんなものあたらねぇよ！！」

魔理沙は箒に乗って避ける

狼牙「まだだ！！　ウルフシュート！！」

さらに狼牙は飛んで狼の気を纏った跳び蹴りを放つ

魔理沙「クソッ！！」

手に持ったミニ八卦炉で何とか防ぐ魔理沙
その衝撃でバランスを崩し、箒から落ちる

魔理沙「いててててて・・・、なかなかやるじゃんお前・・・。」
狼牙「お前もやるじゃねぇか・・・。どうだ、俺の女にならねぇか？」
魔理沙「お断りだ！！」

謙信「何しているんですかあなたは！？」
政宗「よそ見してる場合か？　ファントム・ダイブ！！」
謙信「しまっ・・・・、キャアアアアアアアアアアア！！！」

政宗の一撃を食らい吹き飛ぶ謙信

狼牙「おい、大丈夫か？」
謙信「な、なんとか・・・。」

何とか起き上がる謙信

政宗「もう終わりか？　だったらこっちも行かせてもらうぞ！！」
魔理沙「スペルカード発動！！」

政宗は力をためる。
さらに魔理沙はスペルカードを発動して狼牙と謙信の後ろに回り込む。

狼牙「こりゃまずいな・・・、挟まれた・・・・。」
謙信「どうします？　このままだとやられてしまいます。」
狼牙「んなこた言ったって・・・・。そうだ！」

狼牙はふと魔理沙の持っているミニ八卦炉に目をつける。

狼牙「いいか謙信、今この状況から逆転する方法が思いついた。」
謙信「それは？」
狼牙「それはな・・・。」

狼牙は今この状況から逆転する方法を謙信に静かに教える。

謙信「・・・・確証は・・・？」
狼牙「やってみなきゃわかんねぇな。」
謙信「・・・やってみなきゃ、ですか・・・。」
狼牙「そうだ。とりあえずこの作戦はお前にかかっている。」
謙信「そうですか、一か八かですが、やってみましょう。」
狼牙「ああ！！」

政宗「雑談は終わったか？　ならこいつで決めさせてもらうぜ！！」
魔理沙「そう言うこった！！」

政宗と魔理沙の準備も万端らしい。そして・・・

政宗「こいつで終いだ！！　ＨＥＬＬ　ＥＮＤ　ＤＲＡＧＯＮ！！」
魔理沙「恋符『マスタースパーク』！！」

二人は大技を繰り出す

狼牙「来やがったか・・・・。手はず通り頼むぜ。」

謙信「ええ！！」

そう言い謙信は帝ソードを構え、

謙信「毘沙門天の加護ぞある！」

そう叫び、政宗のＨＥＬＬ　ＥＮＤ　ＤＲＡＧＯＮを止める。

政宗「やるじゃねぇか・・・。だが・・・。」

謙信「ク・・・・。」

だが政宗のＨＥＬＬ　ＥＮＤ　ＤＲＡＧＯＮに謙信が押され始める

その頃狼牙は・・・

狼牙「ウオッ！」

魔理沙「待てぇ～！！」

魔理沙が放つマスタースパークを避けていた

そして・・・・

狼牙「・・・・今だっ！！」

魔理沙「しまっ・・・！！」

狼牙は魔理沙の一瞬の隙を突いて近づいた。

狼牙「今だ謙信！！」

謙信「はい！！」

狼牙の一言と共に謙信は政宗から離れ、狼牙に向かって帝ソードの投げる。

それをキャッチした狼牙は掴んだ帝ソードを魔理沙の持っているミニ八卦炉に差し込む。

魔理沙「え、ちょっ、おまっ！！！！」

ショートしているミニ八卦炉を手に持ってパニクる魔理沙の元に、さっきまで謙信が防いでいた政宗のＨＥＬＬ　ＥＮＤ　ＤＲＡＧＯＮが・・・・

魔理沙「へ・・・・・」

魔理沙に向かって突っ込んできた。

魔理沙「ウギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

政宗のＨＥＬＬ　ＥＮＤ　ＤＲＡＧＯＮが魔理沙に当たり、更に手に持っていたミニ八卦炉が爆発。

そのまま、場外へぶっ飛ぶ魔理沙であった。

政宗「Ｎｏ！！　やっちまった！！」

狼牙「次はお前の番だ！！　行くぞ！！」

政宗「！！」

狼牙は体全体に力をため・・・・

狼牙「ウルフファング！！！」

政宗「Ｎｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏ！！！」

そのまま政宗を場外までぶっ飛ばした。

マスター「勝者、狼牙&謙信！！」
狼牙「ふう・・・・・。」
謙信「何とか勝ちましたね・・・・・。」
二人は疲れた顔で控え室に戻っていった。

そのころ・・・・
四方堂ナリカ「ハァ……ハァ……ハァ……（早く……早くタカマル君に伝えなきゃ・・・・。）」
魔物「マチヤガレ！！」

ナリカは魔物達に追われていた。
しかも肩の部分に大きな傷があり、そこから血が流れている。

ナリカ「何なのよこいつら！？」
？？？「知る必要はない。」
ナリカ「誰！？」

ナリカの前に黒いローブを被った謎の男が現れた。

？？？「・・・・君は少し秘密を知りすぎた。ここで消えてもらう。」

ナリカ「簡単に死ぬわけにはいかないわ！！」

ナリカは短刀を構える。

？？？「ほう・・・、その傷で何処まで持つか見ものだ。」

その男も戦闘態勢を取る。

だが・・・・

魔物「ブゴォ！！」

魔物が何者かに打ち抜かれる。

？？？「誰だお前は！？」

？？？「当ててみろ、ハワイへご招待するぜ。」

？？？「貴様は、コブラ！！」

男はコブラをみて言う。

コブラ「実は外出時間を過ぎちまって、だから急いで帰ろうとしたらこのザマだ。」

コブラは言う

？？？「ここで邪魔が入るとは・・・・、また会おう！」

その男はそのまま帰って行った。

ナリカ「た…助かった・・・・。」

そのままほっとするナリカであった。
その後彼女はタカマル達に回収されました。

その頃コブラは・・・・

警察「待てぇ～、宇宙海賊コブラ！！」
コブラ「なんでこの世界でも追われるハメになるんだぁ～！！」

警察に追われていました。

第七話：まさかのタッグ戦！？（後書き）

ご堪能いただけたかな？

次回はついに主催者が登場！！

第八話：主催者登場と真夜中の激戦（前書き）

ついに主催者が登場！！

そして別の場所で激戦が！！

第八話：主催者登場と真夜中の激戦

マスター「第十三試合！！　ついに主催者の登場、ルガール・バーンシュタイン！！」
ルガール「フッフッフッ・・・・・。」

マスター「続いて、時止めを使うＰＡＤ・・・・、紅魔館のメイド長、十六夜咲夜！！」
咲夜「今ＰＡＤ長って言いかけなかった！？」

マスター「両者、構え！！」
ルガール「時止めか・・・・、その力も私が取り込んでくれよう！！」
咲夜「やれるのならやってみなさい！！」

マスター「始め！！」

ルガール「さて、私の新しい力を見せてやろう・・・・。」

そう言うとルガールが空を飛んだ。

銀時「おぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉい！！　なんだアイツ！！　なんで空飛んでるんだよ！？」
新八「知りませんよ！！」

ルガールが何も無しに飛んだことにめっちゃ驚く銀時と新八

それはともかく試合の方は・・・

咲夜「ハッ！！」

咲夜はとりあえずナイフを投げる。
だがルガールはそれを簡単に避ける。

ルガール「烈風拳！！」

ルガールは烈風拳を繰り出す
咲夜はジャンプして避ける。

咲夜「ハァッ！！」
ルガール「ジェノサイドカッター！！」

咲夜はナイフで斬りかかるがルガールのジェノサイドカッターではじき返されてしまう。

咲夜「チィッ！！」
ルガール「ほう、なかなかやるな。」
咲夜「（実力差はあきらか、このまま戦い続けたらこっちが持たない。ならば・・・）」

そう思い、咲夜はポケットからスペルカードを取り出す。

ルガール「ほう、なんだそれは？」
咲夜「時符『プライベートスクウェア』！！」

咲夜がスペルカードを発動すると、咲夜以外の時が止まった。

上条「アレ？　みんな止まってる？」

一部例外がいるが。

咲夜「今の内に・・・。」

ルガール「ほう、今の技は時を止めるのか・・・。」

咲夜「なっ・・・！」

何故か止まった時の中で動けるルガールを見て驚く咲夜。

ルガール「君みたいに時を止めることは出来ないが、一応動けるらしい。奴も面白い力をくれたものだ。」

咲夜「奴？」

ルガール「・・・言い過ぎたか、まあいい。貴様は今私の力として取り込まれるのだからな。」

そう言うとルガールは黒い玉を数個出現させた。

咲夜「何なのこれ！？」

ルガール「見れば分かる。グラビティ・クラッシガン！！」

そうルガールが叫ぶとさっきの黒い玉は爆散して小さな弾丸となって咲夜に襲いかかってきた。

咲夜「それなら・・・」

咲夜はナイフを数本投げ、その小さな弾丸を１つずつグレイスしていった。

ルガール「また行くぞ！！　カイザーウェイブ！！」
ルガールは巨大な衝撃波を飛ばしてきた。
咲夜「ハッ！！」
咲夜はそれを避ける。だが・・・
ルガール「遅い！！　ジェノサイド・オメガブラスター！！」
咲夜「しまっ・・・キャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」
ルガールの放ったかめはめ波的な銀色のビームを喰らい場外へぶっ飛ぶ咲夜
そしってそのまま場外の壁にめり込んだ。
マスター「勝者、ルガール！！」
ルガール「弱すぎる！！」

ハイデルン「まさか主催者がアイツだったとは・・・。（しかし主催者なのに何故、参加者として出場しているのだ？）」
何故ルガールが参加しているのか考えるハイデルンであった。

その晩・・・・・

レオンとガレーナは夜道を散歩していた。
実を言えば真王においしい飲食店を教えてもらったので食いに行くことにしたのだ。

レオン「ここがアイツの言っていたおいしい飲食店か。」
ガレーナ「なんか古っぽいが・・・、まあいいや。」

そこには、『節乃食堂』と書かれた看板が飾っている古っぽい建物だった。

レオン「まあ、入ってみないと分からんな・・・」
ガレーナ「そうだな・・・。」

そう言い二人がそこへ入ろうとした瞬間。

ヒュン！！

レオン&ガレーナ「！！」

突如として飛んできた光弾を避ける二人。

K「おやおやさすがですなぁ・・・。」
レオン「貴様は確か・・・・。」
ガレーナ「ああ、お前か・・・・。」

K「君達は確か異世界の・・・。ここでお会いできるとは。」
レオン「貴様もここに食いに来たのか？」
K「いえ、ちょっと邪魔者の始末をしていただけです・・・・。」
ガレーナ「邪魔者？」
K「ええ、我らが悲願『世界再創造計画』に刃向かおうとする愚か者のね。」

そう言ったKの後ろにはたくさんの死体があった。

ガレーナ「こりゃひどいな・・・・。」
K「秘密を知りすぎたのですよ・・・。まあ、あの『無貌の神』の協力が必要ですから。」
レオン「無貌の神？」
K「ええ、この計画の参加者は、無貌の神、水銀の王（メルクリウス）、愛すれから（メフィスト）ざる光（フェレス）、さらにアーカイバ・・・、おっと少し喋りすぎましたな・・・。」
ガレーナ「何？」
K「と言うわけで、死んでくれませんか？」

Kは殺気を帯びた笑顔で二人を見る。

レオン「そっちがその気なら・・・」
ガレーナ「やってみやがれ！！」

二人は戦闘態勢に入る。

K「やる気満々ですね・・・、では、行きますよ！！」

そう言うとKはどこからともなく取り出した剣で二人に斬りかかってきた。

レオン「甘い！！」

レオンはその一撃を受け止める。
そして即座に距離を取るレオン。

K「少しは出来るようだ・・・、では。」

そう言うとKは剣を振り上げ、

K「龍神滅炎（りゅうじんめつえん）」

そう言い剣を振り下ろすと、巨大な火柱がレオンに向かって襲いかかる。

レオン「チッ！！」

レオンはそれを紙一重で避ける。どこかにぶつかった火柱は爆発と同時にレオンとガレーナの周りを消滅させた。

ガレーナ「なんだよありゃ・・・」

レオン「凄い威力だな・・・、ならばこっちも本気を出そう！！」

そう意気込むとレオンの体に青いオーラが纏う。

レオン「・・・あまかける白銀の獣王・銀白虎！」

するとレオンが銀色の白虎を半人半獣にさせたような姿へと変身した。

K「半獣人化・・・、これは面白い。」

Kはクスッと少し笑う。

ガレーナ「じゃあこっちも見せてやろう。真紅龍・ドラギラード！」

ガレーナも赤いオーラが纏い、真紅の体の龍・ドラギラードへと半獣化した。

K「ほう、あなたもですか・・・。面白い。」
レオン「じゃあ行くぞ、降り注ぐ氷山雹（レイニング・アイスストーム）！！」
ガレーナ「紅蓮炎龍爪！」
レオンは空中に飛び上がって１０メートル級の氷の塊を、ガレーナは紅蓮の如く、爪に纏いし炎を、Kにぶつける

K「・・・・・。」

ドッカアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアン！！！！！！！！！！！！！

もの凄い爆発音と共に、レオンとガレーナの周りは焼け野原となった。
そして煙がはれた後にはKはいなかった
レオン「オイオイこの程度か、骨のない奴だ。なあ、ガレーナ・・・！」

レオンがガレーナの方を向くと・・・

ガレーナ「ガ・・・・グボゥ！！！」
Ｋ「・・・・誰が骨のない奴だって？」
レオン「なっ・・・・！！」

レオンが見たのは無傷で突っ立ってるＫと、
彼の剣に心臓を貫かれ、虫の息のガレーナだった。

ガレーナ「すまんレオン・・・、しくじった・・・。」

そしてそのまま地面に落ち、倒れるガレーナ

Ｋ「油断禁物ってやつ？　まあどうせ所詮クズはクズだな。」
レオン「貴様ァァァァァァァァァァァァァ！！！」

レオンは怒り、そのままＫに近づく。

Ｋ「やはり僕を本気にさせるまではありませんでしたか。残念。」

そう言うとＫは手で指パッチンをする。すると・・・
レオンはＫが作り出した逃げ場の一切ない砲身状の結界に閉じ込められる。
そして・・・

Ｋ「焦熱世界（ムスペルヘイム）・激痛の剣（レーヴァテイン）。」

そう言うとレオンの真上に大量の業火が降りそそぐ。

レオン「グアアアアアアアアアアアアアアアア！！」
Ｋ「塵も残さず焼け死ね。」

その業火はレオンを呑み込み、レオンの体を焼き尽くす。

レオン「（ちくしょう・・・、私はこんな所でくたばるのか・・・？）」

燃えさかる業火のなかでレオンは自分の死を覚悟した。だが・・・

ガレーナ「おりゃあああああああああ！！」

さっきまで倒れていたガレーナがレオンを閉じ込めていた結界を斧で引き裂いた。

K「ああ、まだ生きてたのアンタ。」

ガレーナ「私が簡単にやられると思うな・・・！」

威勢を張って言うガレーナ。

レオン「ガレーナ！！　傷は・・・」

ガレーナ「大丈夫・・・って、訳ではないけど・・・。」

レオンの言うとおり、ガレーナの傷は酷いものだった。

心臓が貫かれており、大量の血液が流れ出ている。

レオンも体中に酷い火傷を負っている

ガレーナ「ライバルの前で……簡単に…やられるわけにはいかないからな・・・。」

レオン「そうか・・・、なら・・・！」

二人は満身創痍の身でありながら、やる気を出す。

K「まだ抗うのですか・・・・。すぐに始末してあげましょう！！」

Kは二人に襲いかかろうする。

ガレーナ「そう簡単に・・・・」

レオン「やられるかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ガレーナとレオンは、近づいてきたKをギリギリまで引き寄せ・・・・

ガレーナ&レオン「おりゃあああああああああああああああああああああああ！！！！！」

ザシュン！！

K「なっ・・・・！！」

Kが気づいた時には、自分の右腕が切り落とされていた。

レオン「何とか、一矢報いたな・・・。」

ガレーナ「ああ・・・・。」

レオンとガレーナがやったことは、Kをギリギリまで引き寄せ、一瞬の隙を突き、彼の右腕をぶった切ったことだ。

K「・・・・・・。」

Kは斬られた自分の右腕をじっと見ていた。

そして・・・

K「まさか・・・、アハハハハハハハハハハハ！！！！！！！！！！！！！！」

レオン「なんだ？」

突如狂ったように笑い始めるK
そしえそれはすぐに止まる。

K「・・・・・・、死ね。」

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドン！！！！！！！！！！

レオン&ガレーナ「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

Kの一言と同時に、レオンとガレーナの体は蜂の巣になった。

レオン「ガ……ガハッ！！」
ガレーナ「ゴハッ！！」

二人は思いっきり血反吐を吐き、倒れる。

レオン「なんだよさっきの……完全に別人みたいになってんる・・・」
ガレーナ「もうだめだ・・・戦う力も残ってない・・・。」
K「・・・・、散れ。」

Kがトドメを刺そうとし、レオンとガレーナが自分の死を覚悟した
その時

???「時よ止まれ……お前は美しい・・・・!!」

K「!?」

何者かによってKの攻撃が止められた

K「何者だ・・・・!?」

Kはその男のほうを見て言う

藤井蓮「・・・・、俺は藤井蓮。まずその女性達を離してもらおうか!!」

第八話：主催者登場と真夜中の激戦（後書き）

次回から質問コーナーの開催だ！！

質問を待っています！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0759x/

大乱闘スマッシュブラザーズカオス　～Acta est Fabula～

2011年11月11日23時16分発行